

環境保全とツーリズム推進

——地域的視点を中心に——

森 信 之

I. はじめに

環境保全とツーリズム推進との関わりは、それが基づく地域との関わりにおいて多様性をもつ。その多様性は、環境保全、ツーリズム推進各々、あるいは、両者の関わりがさまざまな側面において地域に寄与する効果を生み出し、高めるための方策を明確にし、具体化するための重要な論点となる。

ツーリズムと関係をもち、環境保全、自然環境保護への強い指向性をもつ地域的条件は、推進主体の属性、あるいは、保護、保全と開発への関わり方の差異を伴っている(森 2003 b)ことは、環境保全、ツーリズム推進、地域相互の関わりに関して、環境保全を基盤とする地域特性に基づき、環境保全、自然環境保護に寄与する効果や経済効果、あるいは、地域振興や地域づくりなどのより広範な目的指向性をもち、それらの推進、実現に寄与する効果といった多面的な領域に関わる効果を視野に入れたツーリズム推進に着目することを不可欠とする。そのため、各々の効果を重視するツーリズム推進とともに、そうした効果相互の関係において見出される複合的な効果を焦点とするツーリズム推進のための方策について、環境保全を基盤とする地域特性に適合させ、効果を高める際の軸となる側面を、環境保全とツーリズム推進との関わりにおいてそれらを創出、形成し、機能させるための仕組みを構築する際の焦点となる地域に基づく地域的視点を中心に明らかにすることによって、より有効な方策の具体化、推進に結びつけることが重要になると考えられる。

こうした点に関しては、多面的な領域に関わる地域振興において、それを促す要因としてのツーリズム推進がもたらす効果に着目した場合の政策的観点(森 2009)

との関係が、環境保全とツーリズム推進との関わりに関する地域的視点において、地域に寄与するより広範な領域に関わる効果を軸とする方策にとってふまえるべき基本的な政策的側面として重視される。また、ツーリズムと関わりつつ地域振興を促す効果を高めるための方策、仕組みに関わる計画推進(森 2010)との関係は、そうした政策的側面に基づきつつ方策を具体化し、推進するために、環境保全との関わりを組み込み、環境保全を基盤とした場合の方策、効果に結びつけるために不可欠な計画的側面として重視される。

以上をふまえ、本稿では、環境保全とツーリズム推進との関わりについて¹⁾、先に示した地域的視点を中心に、まず、政策的側面を重視しつつ、地域における環境保全を基盤とする領域や領域間の関係、それらと地域的視点との関わりについて考察し、次いで、計画的側面を重視しつつ、それらとツーリズム推進との関わりに関して、環境保全を基盤とした場合の計画推進の方策や効果において軸となる側面について考察する²⁾。

II. 環境保全を基盤とする領域と地域的視点

環境保全とツーリズム推進との関わりに関する地域的視点は、環境保全を基盤とする地域特性に基づくとともに、ツーリズムを含む多様な領域の構造、特質を視野に入れることを必要とする。この点について政策的側面を重視してみた場合、秋山(2009)が指摘する持続可能性(sustainability)に基軸をおいた多面的な地域(主体-環境系)の編成という地域政策が目指すべき方向は、環境保全を焦点とするそうした編成を中心とする政策形成、政策推進の考え方、目標を明確にし、それらを実現するための実践、取組みを促すことを不可欠とする。その際、まず、政策に関わる領域に着目すると、多

様な領域においてとらえられる持続可能性の追求、実現は、環境保全を焦点とし、異なった領域間の関係の整合性や適合性を保持、向上させることを必要とする。そのため、この点に関わりをもつ領域の構造、それを構築する関係に関して、焦点となる環境保全を基盤とする領域や領域間の関係を中心に、政策を構成する多様な局面とその特性に応じて具体化することが重要になると考えられる。

こうした点に関しては、環境保全を基盤として、第1に、中核的な役割を担う領域が存在し、それが環境保全との間で領域の構造の軸となる関係を形成する、第2に、中心となる領域と、それとは異なった補完的な領域が存在し、中心となる領域、補完的な領域との相互関係、補完的な領域間の相互関係、あるいは、これら領域間の一部の相互関係が、環境保全との間で中心となる領域を核とする関係を形成する、第3に、各々が相対的に均等化された位置づけをもつ複数の異なった領域が存在し、そうした領域間の相互関係、あるいは、これら領域間の一部の相互関係が、環境保全との間で複雑で錯綜した関係を形成するといった異なった特性をもつ領域の構造、それを構築する関係が提示される。

これらは、領域と環境保全との間、領域間における相互関係において生じる影響、効果に関わり、それらを規定する作用を促すことになるが、その特性については、次の3つの点に着目することによって、環境保全自体の内容や環境問題をはじめとする環境に関わる問題との関わりでとらえるための有効性をもつことになると考えられる。第1の中核的な役割を担う領域に関しては、それと環境保全との関係が、その領域に特定されつつ形成されることにより、環境保全を基盤としつつも、その領域自体の重要度の高さから、環境保全との関係において、整合性や適合性、あるいは、矛盾や対立、また、それらの程度といった関係がもつ特質が、環境保全自体の内容やそこで生じる環境問題をはじめとする環境に関わる問題に直接結びつくことになる。したがって、環境保全、そうした問題の解決のための方策に関しては、領域とそれに関わる関係に関する面からみると、相対的に限定された属性をもつ主体やそれが形成する関係をその基盤としてとらえることが必要となる。

第2の中心となる領域と、それとは異なった補完的な領域に関しては、中心となる領域と補完的な領域との相互関係が、包括的に、あるいは、部分的に環境保全との関係を形成するため、中心となる領域については、第1の領域と同様の点が指摘されるが、その関係の強さは

第1の領域に比べると相対的に小さくなる。したがって、環境保全との相互関係において、補完的な領域との相互関係の特性にその範囲を拡大することになることから、異なった領域間の相互関係の特性に視野を広げ、そこで生じる多元的な影響や効果の内容、程度に着目することが必要となる。また、環境保全、環境に関わる問題の解決のための方策に関しては、第1の領域と同様の面からみると、異なった領域における異質な属性をもつ主体やそれが形成する関係が、環境保全、中心となる領域に関わる主体やそれが形成する関係とともにその基盤としてとらえられることとなり、両者が結びつくことによってもたらされる特性が重視される。

第3の各々が相対的に均等化された位置づけをもつ複数の領域に関しては、異なった領域間の相互関係が焦点となり、環境保全やそれに関わる問題との結びつきについては、そうした相互関係と環境保全との関係において中心となる影響、効果をもたらし相互関係を軸とし、その特性、また、そうした影響、効果の内容、程度が重視されることとなる。特に、異なった領域間の相互関係は、環境保全との直接的な関係を含む広範な関わりをもつことになるため、軸となる相互関係を形成する領域を見出し、その領域を核として形成される相互関係を焦点としてその特性をとらえること、また、相互関係の特性は、軸となる相互関係を含めた包括的な領域間の相互関係との関わりを視野に入れたとらえ方が必要になることから、相互関係において、多様な領域との関わり、あるいは、多様な領域間の関わりからもたらされる影響、より水平的な相互関係に基づく相乗効果、特定の領域、相互関係を軸とすることによるそうした効果の増大が重要となる。また、環境保全、環境に関わる問題の解決のための方策に関しては、第1、第2の領域と同様の面からみると、異なった領域における異質な属性をもつ主体やそれが形成する関係が、環境保全、異なった領域との間で複雑化、錯綜することによって、焦点とすべき複数の領域、領域間の相互関係に関わる主体やそれが形成する関係からもたらされる特性が重視される。

次に、地域的視点との関わりに関しては、こうした環境保全を基盤とする領域や領域間の関係に基づき、地域的視点と結びついた政策形成、政策推進の局面とその特性に着目することが必要となる。この点は、環境保全と空間再編成との関係に関して森(2006 a)が示した国家レベルにおける国家政策としての妥当性やその基礎となる条件との整合性の問題、ローカル・レベルにおける対象領域と利害関係者との関わりの緊密化、政策的フレ

ームワークに対し適合性を拡大させるプロセス、新たな対象領域を軸とする政策形成、実践が推進される可能性の増大、また、対象領域と主体、集団の行動との多面的な関係を基に促される組織化における政策推進にとって有効な形態の形成、多様な空間的、社会経済的コンテキストにおける合理性、意義をふまえることによって、次の 3 つの地域的視点と結びついた政策形成、政策推進の局面とその特性をとらえる際に有効な側面が提示される。

第 1 は、対象となる地域を基盤とする主体とそれらが担う機能を焦点とし、環境保全を基盤とする領域、領域間の関係が、地域がもつ条件、特性との間で形成する関係を軸とする側面である。これについては、Edge and McAllister (2009) が持続可能なコミュニティにおける場所に基礎を置くガバナンスの有効性に関して指摘するガバナンス・アプローチの持続可能性への展開における政治的境界に限定されない、特定の場所の多様な個人やコミュニティ、利害関係者の包括的な理解、社会およびエコロジカルな条件とアクターとの関係の重要性をふまえ、領域や領域間の関係の形成、特性に影響を与える地域がもつ条件、特性に関して、地域を基盤としつつそれらの作用を生み出す要因やプロセスを地域で構築されているそれらの包括的な構造やその特質との関わりを焦点としてとらえることが重視される。その際には、地域内におけるそうした関わりに関して重要な役割をもつ条件、特性について、対象となる地域を基盤とし、中心的な機能を担う主体の活動や行動、その空間特性を基に見出し、それらに適合するより詳細な空間的観点から、それらの作用を生み出すメカニズム、あるいは、そうしたメカニズムがもたらす影響や効果を明らかにすることが不可欠となる。

第 2 は、対象となる地域がより狭域的な個別の地域から形成され、環境保全を基盤としつつ広域的観点からとらえられるそれらの連携や補完をもたらし条件や特性、あるいは、それらに基づく地域間関係を軸とする側面である。これについては、先に提示した環境保全を基盤とする領域や領域間の関係の異なった特性に応じてとらえることが必要となる。まず、中核的な役割を担う領域に関しては、環境保全、領域との関わりにおいて個別の地域の同質性が相対的に高く、地域的に一体化する傾向が強いことに伴う統合的な特性をもつ関係、次いで、中心となる領域と、それとは異なった補完的な領域に関しては、そうした領域が各々個別の地域に存在し、領域間の関係が地域間関係に直接反映されることによって

たらされる特性、あるいは、個別の地域内に両者間の関係が存在し、その地域とほかの地域との間で関係が形成されることによってもたらされる重層的な特性をもつ関係、さらに、各々が相対的に均等化された位置づけをもつ複数の領域に関しては、領域と個別の地域との関係が錯綜し、領域、地域各々、あるいは、両者間の関係における重層性が高まることによって、より多核的で多面的な特性をもつ関係といった点が指摘される。

第 3 は、環境保全を基盤とする領域や領域間の関係の特性に応じた柔軟な地域間関係を焦点とし、そうした特性に関して見出される錯綜した地域間関係の形成、機能において中心となる要因を軸とする側面である。これについては、そうした要因のとらえ方を明確にすることが不可欠となる。この点に関して、Harrington et al. (2008) は、利害関係のコミュニティについて、ロカリティ、影響、境界を越える利害関係、実践、アイデンティティに関する 5 類型でとらえることによって、コミュニティと空間に基づく概念を提示している。これらをふまえ、環境保全を焦点とした地域間関係に着目し、環境保全に影響や効果をもたらし主体の活動や行動、その空間特性に基づくことによって、地域間関係の形成、機能において中心となる要因の特性を明確にすることが必要となる。その際には、領域や領域間の関係が関わる地域が多様な空間スケールで多彩に形成されるため、特定の地域に限定されない主体の特性や機能において中核的な役割を生み出す局面を明らかにし、それに基づく柔軟な地域間関係の形成のプロセス、それをもたらし要因、機能を、各々に関わる地域がもつ条件、特性と結びつけつつ具体化することが重要である。

Ⅲ. ツーリズム推進との関わり

環境保全を基盤とする領域や領域間の関係に基づき、地域的視点と結びついた政策形成、政策推進の局面とその特性をふまえ、先の政策的側面に次いで計画的側面を重視しつつツーリズム推進との関わりを論点とするためには、環境保全とツーリズム推進との関わりにおいて、両者に寄与する効果を相乗的に高めることや両者に影響を与え、望ましい相互関係を構築するための方策を焦点とする必要がある。この点は、地域振興とツーリズムに関わる計画推進のための方策や効果に関して指摘した焦点となる領域に着目した方策の効果、それらとは異なった領域に関わる方策の効果、また、そうした効果の間の連関関係を見出し、計画推進のプロセスにおいてそれら

を統合することによって、そうした効果を計画推進の効果として総体的、相乗的に高めるための仕組みを構築し、強化することが必要になると考えられる（森 2010）ことから、環境保全を基盤とした場合の計画推進の方策や効果において軸となる側面を見出すことを不可欠とする。

そのため、Frame et al. (2004) が指摘する環境管理における参画者、ステークホルダーに関わる知的資本やソーシャルキャピタルに関する効果、あるいは、Cowell and Owens (2006) が指摘する開発に関わる対立を含む計画プロセスと、公共政策の主要な領域である環境の持続可能性との間の結びつきに関する計画の重要性をふまえつつ、地域的視点を中心とし、ツーリズム推進との関わりを焦点とする際に重視すべき点を明確にすることが不可欠となり、それらの点に基づくことによって、以下の2つの軸となる側面をもたらす展開の有効性が提示される。

第1は、環境保全、地域振興への指向性を基礎とし、

環境保全や自然環境保護を重視するツーリズム推進を中心として、環境保全、地域振興各々への指向性に基づく取組みの一体化、連動を促し、両者に寄与する効果を創出、強化する作用を軸とする展開である。

森 (2004 b, 2005 b, 2006 b, 2008, 2009, 2010) で取り上げている三重県東紀州地域における近年の取組みをみると³⁾、御浜町における「平成21年度吉野熊野国立公園（熊野地域）エコツーリズム総合推進事業業務」があり、そこでは環境省近畿地方環境事務所、御浜町の主催による講演会やワークショップが開催されたほか、「試行ツアー」をはじめとする地域資源の発掘や活用のための取組みが行われている（第1表）。これらは、国立公園内において、国、自治体とともに、地域住民、専門家などの環境保全や地域振興に関わる主体が参画し、エコツーリズム推進への基礎的、初期的な段階からの取組みを行うことを基に、中核となるエコツーリズム推進の効果を各主体の活動や行動を通じて多面的な領域に及ぼすことによって総体的な地域振興に結びつけることを

第1表 「平成21年度吉野熊野国立公園（熊野地域）エコツーリズム総合推進事業業務」の概要

1. 業務の目的、業務場所、業務期間

熊野地域は平成16年に紀伊半島の霊場と参詣道が世界文化遺産に指定されて以降、多くの観光客が社寺仏閣巡りや熊野古道散策に訪れるようになった。また、熊野古道を案内するガイドグループが発足するなど、観光のあり方にも変化がみられはじめている。

三重県南牟婁郡御浜町は、こうした状況を地域活性化の絶好の機会と捉え、その対応策を模索しているところで、行政、地域、民間が一体となって自然・歴史文化・地場産業といった地域資源をワイズユース（賢明な利用）できる協働体制の構築が必要であると認識されているものの検討段階である。

そこで本業務は、地域資源の発掘及びこれを活用するための企画を行うワークショップ等を開催し、エコツーリズムの推進に資することを目的として実施した。

2. 業務場所

吉野熊野国立公園区域内 三重県南牟婁郡御浜町

3. 業務期間

平成21年12月7日～平成22年3月19日

4. 業務内容

(1) 講演会及びワークショップの開催

地元御浜町の住民、行政担当者にエコツーリズムや地域づくりへの関心を高めてもらうため、フットパスアドバイザーと地域づくりアドバイザー2名の講師を招聘した「講演会」を行い、その後住民参加による御浜町の宝の発掘、宝の地図づくり、宝を巡るコース（フットパス）づくりを行う全3回の「ワークショップ」を実施した。講演会、ワークショップは、環境省近畿地方環境事務所、御浜町の主催で行われ、参加者数は、講演会及び第1回ワークショップでは、一般参加者24名（講演会のみに参加した者を含む）、環境省5名、御浜町3名、メッツ研究所2名、第2回、第3回ワークショップでは、一般参加者25名、地域アドバイザー2名、環境省4名、御浜町3名、メッツ研究所1名であった。

(2) 試行ツアーの実施

ワークショップで検討したコースを評価するための「試行ツアー」を企画、実施した。

(3) 自然観光資源に係る資料収集及び評価

御浜町の自然観光資源等の情報を既存資料などにより収集・評価し、ワークショップで参考資料として配布した。さらに、ワークショップで新たに発掘された資源と合わせて、地元有識者による資源の評価を行った。

(4) 振り返りシートの作成及び実施

講演会やワークショップでの成果を次に繋げられるよう、各ワークショップの開催後及び試行ツアーの実施後に参加者を対象としたアンケート調査を実施し、分析を行った。

業務内容には、以上の(1)～(4)のほかに、地域資源の広報活動、打ち合わせ協議がある。

5. 対象のエリア

実施期間を考慮し、ワークショップの対象地域は、「熊野古道浜街道とその周辺部（オレンジロードから海側の部分）」とした。

期待した取組みといえる。

こうした取組みについては、環境政策と地域振興策との関係、地域においてそれに関わる多様な主体の連携、協働によるツーリズム推進が焦点となるが、その効果を創出、強化するためには、地域における環境保全や環境管理のための方策、また、ツーリズムの形態や機能、推進のための条件を地域がもつ条件、特性に整合、適合させ、ツーリズムと地域との一体化を促す環境保全や環境管理に効果をもたらすシステムを構築するための方策、さらには、ツーリズム推進を中心とする環境保全や環境管理に関わる主体とその特性、機能を焦点とする方策を明確にし、それらの推進を促す要因、条件を環境、ツーリズム推進、地域に関わる計画推進のプロセスに位置づけ、それらに寄与する効果を軸とする仕組みを基盤として構築することが重要になると考えられる。

この点は、地域における環境保全や環境管理、ツーリズムの形態や機能、推進のための条件と地域がもつ条件、特性との整合、適合、地域との一体化、ツーリズム推進を中心とする環境保全や環境管理に関わる主体に関する論点の深化を必要とする。そのためには、それら各々について、先の持続可能なコミュニティにおける場所に基礎を置くガバナンスの有効性 (Edge and McAllister 2009)、持続可能なツーリズムのための保護地域の管理における適応性のある共同管理とツーリズムの再概念化の必要性 (Plummer and Fennel 2009)、ツーリズムのローカル・ガバナンスに関する異なったガバナンス・ネットワークに基づくとらえ方、持続可能なツーリズム政策への効果、また、効率と包括性、内的正当性と外的正当性、柔軟性と安定性各々におけるトレードオフによる有効性 (Beaumont and Dredge 2010) といった点をふまえて、環境保全を基盤とする関係におけるツーリズム推進、地域の位置づけを明確にし、そこで計画推進の軸となる関係を抽出することが必要となる。また、その際には、そうした関係を構築するうえで中核的な役割を担う主体、その活動や行動の要因、意思決定に基づく計画システムの構築のための方策を具体化することが重視されることになる。

第 2 は、環境保全を指向する地域特性を基礎とし、環境保全、地域振興をはじめとする多様な領域に関わる広域的な取組みにおけるツーリズム推進に関して、広域的関係においてとらえられる地域特性、取組みの多様性とツーリズム推進との関わりを焦点とする効果を創出、強化する作用を軸とする展開である。

森 (2002) で取り上げた三重県宮川流域における取

組みをみると、2007 年に宮川流域ルネッサンス協議会と三重県によって策定された「宮川流域ルネッサンス事業第 3 次実施計画」(対象期間：2007 年度～2010 年度)⁴⁾に基づいて策定された「宮川プロジェクト」があり、宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2010) は、対象期間を 2010 年度として、2009 年度策定された「宮川プロジェクト活動集 2009」の検証を行い、趣旨に賛同した流域の人々、団体などの活動 98 件を掲載し、作成したものとされている (宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 2010: 4)。宮川流域ルネッサンス協議会は、2000 年 6 月に、宮川流域の 14 市町村 (宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2007) では 6 市町) と三重県、国関係機関によって設立されたが、2006 年 4 月からは住民代表も協議会の委員に加わっており (宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 2007: 6)、「宮川プロジェクト」には、地域住民、企業、事業者、行政、また、それらによる組織、団体が主体として取り組んでいる (第 2 表)。

このような流域、あるいは、流域圏といった広域的な取組みを不可欠とする地域特性、そうした取組みを担う主体の多様性に関しては、環境保全を基盤としつつ、まず、環境保全、自然環境保護の推進、それへの目的指向性が強く、そのための取組みおよびそれを担う主体による環境保全、自然環境保護を軸とする方策、次いで、地域振興の推進、実現化の中心となる作用における多様性、多元性に応じた取組みおよびそれを担う主体による地域振興を軸とする方策、さらに、ツーリズムの特性、地域特性に適合したツーリズムの形態や機能に応じた取組みおよびそれを担う主体によるツーリズム推進を軸とする方策の 3 つの方策の相互関係において、以下のようなツーリズム推進を軸とする方策が生み出す効果の有効性を示すことが可能になると考えられる。

第 1 に、環境保全、自然環境保護を軸とする方策と地域振興を軸とする方策が緊密化し、取組みやそれを担う主体に関して両者の内容が重なり合う領域に特化する傾向を示す条件においては、ツーリズム推進を軸とする方策との相互関係に関して、ツーリズムの形態や機能自体が環境保全や自然環境保護への強い指向性を示す特性をもつことによって、地域における広範な環境保全、地域振興にとっては限定的な内容になるものの、そうした目的指向性の強いツーリズム推進が各々の方策の統合、集約を促すこととなる。第 2 に、環境保全、自然環境保護を軸とする方策と地域振興を軸とする方策が両者に寄与する効果をもたらす均衡化した相互関係を形成し、

第2表 「宮川プロジェクト」の活動を担う主体

<p>1. 清流や森林、溪谷、干潟など豊かな自然の保全・再生のために 大台町：森林管理署、三浦漁業協同組合、伊勢度会ロータリークラブ、みやがわ森選組、水土里ネット宮川用水、奥伊勢宮川いきいき夢倶楽部、やさい蜜の郷公園、和会、大台町ふるさと案内人の会、大紀町：友山会 (2)、継ぐ時、多気町：勢和みどりと生き物の会、多城田公民館、竹林整備隊、度会町：【宮川流域案内人】中森巖、玉城町：原農水環境を守る会、明和町：NPO 法人うのの郷クラブ、伊勢市：小俣川の会、朝熊町委員会絆の森小学校、鼓ヶ岳里山くらぶ、伊勢市まちづくり市民会議環境分科会、五十鈴川をきれいにする会、広域：宮川流域の木で家をつくる会、福田清人、秘密基地研究会</p> <p>2. 豊かで清らかな川の流れを甦らせる健全な水循環の構築のために 大台町：宮川小学校、大台町ふるさと案内人の会、伊勢市：勢田川とおりゃん瀬を育てる会、宮川浄化センター、五十鈴川にホテルをとばす会、広域：守ろう清流！宮川流域いっせいチェックワークショップ</p> <p>3. 川とともに育まれてきた歴史・文化の継承・発展のために 大台町：NPO 法人大杉谷自然学校、大台町ふるさと案内人の会 (5)、大紀町：膳、たいき歴史街道塾、【宮川流域案内人】小倉康正、友山会、多気町：熊野古道女鬼峠保存会、度会町：【宮川流域案内人】中野喜吉、玉城町：玉城語り部会、伊勢市：竜ヶ峠を守る会、円座町羯鼓踊保存会、NPO 法人五十鈴塾、【宮川流域案内人】中森巖、伊勢与一翁顕彰実行委員会、NPO 法人伊勢河崎まちづくり衆、NPO 法人神社みなとまち再生グループ、【宮川流域案内人】北村武久、NPO 法人二見浦・賓日館の会 (2)、山田奉行所記念館友の会、【宮川流域案内人】中森巖、広域：【宮川流域案内人】田村陽一、大台町ふるさと案内人の会、三重県埋蔵文化財センター、里山薬食塾しえあわせ、【宮川流域案内人】中野喜吉</p> <p>4. 自然環境と調和した魅力ある流域づくりのために 大台町：【宮川流域案内人】遠藤実華・福田良彦、三瀬谷発電管理事務所、和会、大台町ふるさと案内人の会 (2)、大紀町：膳 (5)、さんずい (飲食店)、【宮川流域案内人】楠川とみか、ドライブインあら竹、多気町：多気町勢和地域資源保全・活用協議会、度会町：(有)中森製茶、小萩区、玉城町：ふるさと味工房アグリ、明和町：明星水を守る会、伊勢市：【宮川流域案内人】中村菜穂子、朝熊山麓に花を咲かす会、【宮川流域案内人】飯島久男、伊勢豊浜ナベヅルを守る会、広域：水恋鳥、宮川流域フォークアンサンブル、宮川流域エコロジークラブ、宮川流域ルネッサンス協議会 (2)、大台町ふるさと案内人の会、きつちよ夢くらぶ (2)、【宮川流域案内人】中森巖、伊勢志摩さらき千選実行グループ、秘密基地研究会 (2)、天地の恵み会 ((株)うおすけ)、国際 CAN つぶし協会</p>

注) 主体は、宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2010) に記載されている「活動団体・活動者名」であり、宮川ルネッサンス事業の基本理念に基づく4つの分類ごとに、市町別および「広域」に区分している。()内の数字は、この区分内における当該主体による活動の数である。

出典：宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2010：4-15) により作成。

両者の連携が相乗的な効果をもたらす条件においては、ツーリズム推進を軸とする方策との相互関係に関して、ツーリズムが、環境保全、自然環境保護と地域振興に関わる個々の取組みの目的や実践、あるいは、それを担う主体の特性、主体形成や主体間の関係において整合性が高い特性をもつことによって、ツーリズム推進が地域における各々の方策間の相互関係における均衡を保ち、それに基づき、各々の方策にとっての多様性、多元性を生み出すこととなる。第3に、環境保全、自然環境保護を軸とする方策と地域振興を軸とする方策との相互関係において、地域振興の推進がもたらす効果の重要性が相対的に大きく、広範な領域に関わりをもつ地域振興への指向性が強い傾向を示す条件においては、ツーリズム推進を軸とする方策との相互関係に関して、ツーリズムが、地域振興において中心となる側面や地域振興を促すメカニズムを構築し、作用させる要因との整合性が高い特性をもつことによって、ツーリズム推進が、各々の方策間の相互関係において地域振興への指向性が強いことに伴う方策、効果の内容の広範化、地域におけるその役割の重要性の増大を生み出すこととなる。

IV. おわりに

本稿では、環境保全とツーリズム推進との関わりについて、地域的視点を中心に、まず、政策的側面を重視しつつ、地域における環境保全を基盤とする領域や領域間の関係に関して、第1に、中核的な役割を担う領域、第2に、中心となる領域と、それとは異なった補完的な領域、第3に、各々が相対的に均等化された位置づけをもつ複数の異なった領域に関する3つの特性を提示し、それら各々について、環境保全自体の内容や環境問題をはじめとする環境に関わる問題との関わりでとらえるための有効性について考察した。

また、地域的視点と結びついた政策形成、政策推進の局面とその特性をとらえる際に有効な側面として、第1に、対象となる地域を基盤とする主体とそれらが担う機能を焦点とし、環境保全を基盤とする領域、領域間の関係が、地域がもつ条件、特性との間で形成する関係を軸とする、第2に、対象となる地域がより狭域的な個別の地域から形成され、環境保全を基盤としつつ広域的観点からとらえられるそれらの連携や補完をもたらす条件や特性、あるいは、それらに基づく地域間関係を軸とす

る、第 3 に、環境保全を基盤とする領域や領域間の関係の特性に応じた柔軟な地域的關係を焦点とし、そうした特性に関して見出される錯綜した地域的關係の形成、機能において中心となる要因を軸とするという 3 つの側面を提示した。

次に、ツーリズム推進との関わりについて、計画的側面を重視しつつ、環境保全を基盤とした場合の計画推進の方策や効果において軸となる側面をもたらす展開の有効性として、第 1 に、環境保全、地域振興への指向性を基礎とし、環境保全や自然環境保護を重視するツーリズム推進を中心として、環境保全、地域振興各々への指向性に基づく取組みの一体化、連動を促し、両者に寄与する効果を創出、強化する作用を軸とする、第 2 に、環境保全を指向する地域特性を基礎とし、環境保全、地域振興をはじめとする多様な領域に関わる広域的な取組みにおけるツーリズム推進に関して、広域的関係においてとらえられる地域特性、取組みの多様性とツーリズム推進との関わりを焦点とする効果を創出、強化する作用を軸とするという 2 つの点を提示した。

今後は、以上のような方策、効果について、政策形成、政策推進、また、計画推進と地域特性との関わりを重視しつつ、環境保全とツーリズム推進との連関に基づく方策、その推進のためのプロセス、効果を高めるためのメカニズムを明確にすることが課題となる。

注

- 1) これに関しては、持続可能なツーリズム開発に関するオルタナティブやデスティネーションのキャピタルに関するモデル (Sharpley 2009: 175-198)、環境とツーリズムとの関係における環境政策の重要性と市場の環境倫理の強さの有用性 (Holden 2009)、生物多様性とツーリズムとの関係における介入に関する論点 (Van der Duim and Caalders 2002) などの背景や要因として密接に結びついた広範な領域に関わる問題を視野に入れる必要がある。
- 2) 環境保全とツーリズムに関わる計画に関しては、地域との関係を重視したツーリズムと計画システムの特性 (森 2004 a)、土地利用、環境との関連における計画的機能 (森 2003 a)、環境管理を中心とする計画との関係 (森 2005 a) をふまえて考察を進める。
- 3) 三重県 (2008) における「戦略 2: 多様な主体による観光の魅力づくり・人づくり戦略」の「4 エコツーリズムの推進」(三重県 2008: 19-20) では、「エコツーリズムの推進は、「環境」、「観光」、「地域」が深い関わりを持ちながら取り組む社会の仕組みづくり」であるとし、紀南地域における取組み、宮川流域圏(宮川流域の 6 市町)における「宮川流域エココミュニ

ジウム」への取組みを示している。

- 4) 宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2007: 4) では、「宮川流域ルネッサンス事業の流れ」として、「宮川流域ルネッサンス・ビジョン」のもとに、1998 年から 2010 年までを対象期間とする「基本計画」を策定し、2010 年を「流域再生の一里塚」と位置づけて、第 1 次実施計画 (1999 年度から 2002 年度)、第 2 次実施計画 (2003 年度から 2006 年度) を策定し、さまざまな事業を展開しているとしている。

文献

- 秋山道雄 (2009): 多様化と構造転換のなかの地域政策、『経済地理学年報』55: 300-316.
- 株式会社メッツ研究所 (2010): 『平成 21 年度吉野熊野国立公園 (熊野地域) エコツーリズム総合推進事業業務報告書』(環境省請負).
- 三重県 (2008): 『三重県観光振興プラン第 2 期戦略』.
- 宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2007): 『想いをかたちに 宮川流域ルネッサンス事業第 3 次実施計画 (平成 19 年度~22 年度)』.
- 宮川流域ルネッサンス協議会・三重県 (2010): 『宮川プロジェクト活動集 2010』.
- 森信之 (2002): 地域振興におけるツーリズム-ツーリズム計画に関わる視点-, 『大阪明浄大学紀要』2: 69-82.
- 森信之 (2003 a): 地域における計画的機能の効果-ツーリズムに関する論点を基に-, 『大阪明浄大学紀要』3: 79-89.
- 森信之 (2003 b): ツーリズム推進の特質と変化-地域的視点に基づく考察-, 『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 2: 81-96.
- 森信之 (2004 a): ツーリズムと計画システム-空間的側面を中心に-, 『大阪明浄大学紀要』4: 117-127.
- 森信之 (2004 b): 地域発展のための地域的條件-ツーリズムと地域経済に基づく論点-, 『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 3: 13-27.
- 森信之 (2005 a): ツーリズムに関する計画と開発の特質, 『大阪明浄大学紀要』5: 85-96.
- 森信之 (2005 b): 地域変化と計画システムの再構築-地域経済構造とツーリズムを中心とする考察-, 『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 4: 33-50.
- 森信之 (2006 a): 環境保全をめぐる空間再編成, 『大阪明浄大学紀要』6: 69-76.
- 森信之 (2006 b): 地域振興の構造-空間とツーリズムに基づく視点-, 『観光研究論集』(大阪観光大学観光学研究所年報) 5: 113-126.
- 森信之 (2008): 地域振興のメカニズムと計画, 『大阪観光大学紀要』8: 47-53.
- 森信之 (2009): 地域振興におけるツーリズム推進の空間特性, 『大阪観光大学紀要』9: 33-39.

- 森信之 (2010) : 地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大阪観光大学紀要』 10 : 167-178.
- Beaumont, N. and Dredge, D. (2010) : "Local tourism governance: a comparison of three network approaches", *Journal of Sustainable Tourism* 18 : 7-28.
- Cowell, R. and Owens, S. (2006) : "Governing space: planning reform and the politics of sustainability", *Environment and Planning C* 24 : 403-421.
- Edge, S. and McAllister, M. L. (2009) : "Place-based local governance and sustainable communities: lessons from Canadian biosphere reserves", *Journal of Environmental Planning and Management* 52 : 279-295.
- Frame, T. M., Gunton, T. and Day, J. C. (2004) : "The role of collaboration in environmental management: an evaluation of land and resource planning in British Columbia", *Journal of Environmental Planning and Management* 47 : 59-82.
- Harrington, C., Curtis, A. and Black, R. (2008) : "Locating communities in natural resource management", *Journal of Environmental Policy & Planning* 10 : 199-215.
- Holden, A. (2009) : "The environment-tourism nexus: influence of market ethics", *Annals of Tourism Research* 36 : 373-389.
- Plummer, R. and Fennel, D. A. (2009) : "Managing protected areas for sustainable tourism: prospects for adaptive co-management", *Journal of Sustainable Tourism* 17 : 149-168.
- Sharpley, R. (2009) : *Tourism development and the environment: beyond sustainability?*, Earthscan.
- Van der Duim, R. and Caalders, J. (2002) : "Biodiversity and tourism: impacts and interventions", *Annals of Tourism Research* 29 : 743-761.